



円相場、下落し161円台前半 対ユーロも安い

10日早朝の東京外国為替市場で、円相場は下落している。8時30分時点は1ドル=161円33～35銭と前日17時時点と比べて42銭の円安・ドル高だった。米連邦準備理事会（FRB）のパウエル議長による米議会証言後に米長期金利の低下が一服し、日米で大きく開いた金利差に着目した円売り・ドル買いが優勢となった。日米で株高が続いているのも「低リスク通貨」とされる円の売りを促した。

9日に米上院での議会証言に臨んだFRBのパウエル議長は、米労働需給が和らぎつつあるとして米経済は「もはや過熱していない」と語った。一方で「金融緩和が早すぎたり過度になりすぎたりすればインフレの進展が滞るか反転する可能性がある」とも指摘し、今後のデータを見極める姿勢を示した。利下げ時期に関する具体的な言及を避けたことで9日に米長期金利が上昇し、円売り・ドル買いが出た。

日米で株高が続いているのも円相場の重荷となっている。9日には日経平均株価が初めて4万1000円台で終えたほか、米国ではハイテク株の比率が高いナスダック総合株価指数などが連日で最高値を更新した。投資家は運用リスクを取りやすくなるとの見方が強まり、ドルやユーロなど主要通貨に対する円売りを促している。

円は対ユーロでも下落し、8時30分時点は1ユーロ=174円49～51銭と、同43銭の円安・ユーロ高だった。ユーロは対ドルで横ばい圏で推移している。8時30分時点は1ユーロ=1.0815～16ドルと同0.0002ドルのユーロ安・ドル高だった。



NY商品、原油続落 米国の供給減観測の後退で 金は反発

9日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は3日続落した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の8月物は前日比0.92ドル（1.1%）安の1バレル81.41ドルで取引を終えた。前日にテキサス州に上陸したハリケーン「ベリル」の石油生産への影響は限られたとの観測が広がった。米連邦準備理事会（FRB）が早期の利下げには慎重との見方も相場の重荷となった。

ベリルは上陸後に熱帯低気圧となったものの、テキサス州メキシコ湾岸の石油精製施設の稼働状況などへの影響が懸念されていた。9日には内陸部を北上し、石油関連施設への大きな影響は回避されたとの観測が広がった。主要な輸出拠点であるコーパス・クリスティ港では「目立った影響は報告されていない」との声明が公表された。供給が減るとの観測が後退し、売りを誘った。

FRBのパウエル議長は9日、米上院銀行委員会で証言に臨んだ。インフレ鈍化の進展に評価を示しつつ「さらなる良いデータが得られれば、インフレ率が2%に向かって持続的に低下するという自信が深まる」と話した。半面、早期の政策転換に慎重な姿勢を崩していないとの受け止めもあり「原油先物相場にとってはベアリッシュ（弱気）に映った」（ストラテジック・エネルギー・アンド・エコノミック・リサーチのマイケル・リンチ氏）との声が聞かれた。

ニューヨーク金先物相場は反発した。ニューヨーク商品取引所（COMEX）で取引の中心である8月物は前日比4.4ドル（0.2%）高の1トロイオンス2367.9ドルで取引を終えた。11日に6月の米消費者物価指数（CPI）の発表を控え、持ち高調整の買いが優勢になった。もっとも、米長期金利が上昇（債券価格は下落）し、金利の付かない資産である金の先物の上値を抑えた。ドル高もドルの代替投資先とされる金先物の相場の重荷となった。



ENEOS、海運を日本郵船に売却 LPG運搬船など

ENEOSホールディングス（HD）は8日、液化石油ガス（LPG）運搬船などの海運事業を日本郵船に売却すると発表した。売却の完了時期は2025年4月で、金額は非開示。船舶の二酸化炭素（CO2）排出規制への対応や運航効率化への投資を単独で続けるのが難しいと判断した。

ENEOSHD傘下で海運を担うENEOSオーシャン（横浜市）の事業のうち、中東から日本に原油を運ぶ原油タンカー以外を売却する。ENEOSの製油所などでつくったLPGや石油製品の海上輸送が対象となる。

これらの事業をENEOSオーシャンが新たに設立する完全子会社に承継したうえで、その会社の株式の80%を日本郵船に売却する。

ENEOSオーシャンの24年3月期の連結売上高は約760億円、営業利益は約80億円だった。このうち、売却の対象となる事業が占める規模は明らかにしていない。新会社は日本郵船の傘下で脱炭素やデジタルトランスフォーメーション（DX）への対応を急ぐ。

日本郵船は液化天然ガス（LNG）船と並んでLPG船も注力領域に掲げている。LPG船は発電などの用途で需要が高まると期待されるアンモニア輸送船とも親和性が高い。ENEOSHDからの事業取得により、将来のアンモニア輸送を強化する布石にもする。



鹿島、コンビニ店内調理の廃食油を活用 燃料を脱炭素化

鹿島は、廃食油を用いたバイオディーゼル燃料と軽油を混合した燃料を北海道内の建設現場で稼働する建設機械などで活用する。出光興産やエア・ウォーターと連携して供給体制を整えた。鹿島の全国的な取り組みの第一歩として、北海道の道央地区で使う燃料の置き換えを進める。同社が国内で利用する燃料の約5%に当たる1600キロリットルほどが当面の対象だ。



植物由来の廃食油から製造するバイオ燃料は、燃焼による二酸化炭素（CO₂）の排出量をゼロに算定できる。植物がもともと吸収・固定していたCO₂を放出するだけとみなせるからだ。

鹿島が活用するのは純度100%のバイオ燃料を軽油に5%混合した「B5軽油」で、通常の軽油と同じように建機や発電機の燃料として利用できる。燃焼時のCO₂排出量を軽油に比べて5%減らせる。

同社は30年度までに自社が排出するCO₂（スコープ1、2）を21年度比で42%削減する目標を立てている。自社排出の約7割が建機の燃料利用に伴うもので、対策は必須だ。30年度までに全国の建設現場で利用する燃料の65%をバイオ燃料に転換する方針で、同時点での必要量を年間約3万キロリットルと見積もる。

その第一歩として北海道で整備した供給網では、出光興産が軽油の製造を、白老油脂（北海道白老町）が廃食油の回収からバイオ燃料の製造をそれぞれ担当する。それをエア・ウォーターのグループ会社が持つ石狩市内の工場に運んでB5軽油を製造。その品質などを出光が確認して「出光バイオディーゼル5」の名称で製品化した上で、鹿島の建設現場に供給する。原料となる廃食油は主に、北海道を中心に展開するコンビニのセイコーマートが店内で弁当やホットスナックの調理に使用したものだ。





建設現場の不安解消が最大の課題

バイオ燃料は09年に品質確保のための改正法が施行されて活用体制が整備された。技術的な目新しさはない。ただし、当時は燃料フィルターの目詰まりやエンジンのトラブルを引き起こす場合があり、建設現場での活用は進まなかった。

鹿島環境本部の吉村美毅本部次長は、「過去に品質が良くないバイオ燃料を使った経験などによる現場の不安の解消が今年の最大の課題だ」と話す。まずは道央地域でバイオ燃料の活用を進め、現場の理解を得つつ供給体制などを確認する。



建設現場の脱炭素化に向けて、軽油の代替となるバイオ燃料や天然ガス由来の燃料（GTL）の需要は高まっている。日本建設業連合会は、施工段階のCO₂排出量を30年度までに13年度比で40%削減する目標を提示。軽油代替燃料や電動建機などの普及が必要だとしている。



ANA SAF輸送、荷主向け初証書

全日本空輸（ANA）は8日、再生航空燃料（SAF）による貨物輸送の荷主向け証書を、京セラに初めて発行すると発表した。二酸化炭素（CO2）削減量を証書にすることで、荷主は環境対応を取引先や投資家などに示しやすくなる。原材料の調達や製品の輸送を含めたサプライチェーン全体でCO2を削減する企業の利用を促す。

同日、成田空港で米シカゴ行きANA貨物機に京セラの自動車部品を搭載する様子を公開した。ANAの「SAFフライトイニシアチブ」という取り組みの一環。2021年から貨物業者などに証書を出していた。



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	5/28～6/3	83.65	0.11	158.18	0.43	83.22	0.34
	6/4～6/10	79.38	▲4.27	157.07	▲1.11	78.42	▲4.80
	6/11～6/17	82.81	3.43	158.25	1.18	82.42	4.00
	6/18～6/24	85.24	2.43	159.57	1.32	85.55	3.13
	6/25～7/1	85.98	0.74	161.48	1.91	87.32	1.77
	7/2～7/8	87.57	1.59	162.35	0.87	89.42	2.10
水曜日～ 火曜日	5/29～6/4	83.01	▲0.31	158.08	0.24	82.53	▲0.18
	6/5～6/11	79.93	▲3.08	157.25	▲0.83	79.05	▲3.48
	6/12～6/18	82.92	2.99	158.34	1.09	82.58	3.53
	6/19～6/25	85.74	2.82	159.93	1.59	86.24	3.66
	6/26～7/2	86.02	0.28	161.91	1.98	87.59	1.35
	7/3～7/9	87.46	1.44	162.19	0.28	89.21	1.62

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート